

株式会社ジェイコム武蔵野三鷹
2014年度(平成26年)番組審議委員会 議事録

- I . 日 時:** 2015年2月20日(金) 10:30-12:00
II . 会 場: J:COM 武蔵野・三鷹 (SCセンター3階2会議室)

III. 出席者:

【番組審議委員】

(順不同・敬称略)

- ・塚本真史
- ・新井正樹
- ・河野康之 (代理:和泉敦)
- ・名古屋友幸
- ・岡崎昌史
- ・西海真理 (代理:土方弘子)
- ・見城武秀

【株式会社ジェイコム武蔵野三鷹】

- ・榎本一夫 (代表取締役社長)
- ・谷津幸利 (取締役)
- ・八代誠 (監査役)
- ・金子俊治 (顧問)
- ・山田佐智子 (企画・制作部 部長)
- ・遠藤勇二 (企画・制作部 アシスタントマネージャー) 事務局 (司会進行)
- ・上原正嗣 (企画・制作部)
- ・那須貴文 (企画・制作部) 事務局 (書記)

【株式会社ジュピターテレコム】

- ・荻野雅也 (東京中央ブロック エリア制作統括部 部長)

IV. 資料:

1. 「2014年度 J:COM 武蔵野・三鷹 事業概況報告」
2. 「2014年度 J:COM 武蔵野・三鷹 コミュニティチャンネルの取り組み」
3. 「2015年度 J:COM チャンネル方針」

V. 議事内容:

【1】 開会

- ・遠藤勇二 企画・制作部 アシスタントマネージャーより開会の挨拶

【2】 社長挨拶

榎本一夫 代表取締役社長より挨拶

- ・昨年4月のジャパンケーブルネット株式会社と株式会社ジュピターテレコムとの経営統合を受け、同年7月1日付で社名(商号)を株式会社JCN 武蔵野三鷹から株式会社ジェイコム武蔵野三鷹に変更した。サービスもJ:COMブランドに統合している。株式会社ジュピターテレコムとの統合後も武蔵野・三鷹地域に密着した番組づくりを進めてきており、今後も変わらず継続していく。本日は、委員の皆様から弊社が提供する番組や活動について様々なご意見を頂戴したい。

【3】 各委員のご挨拶

【4】 2014年度 事業概況報告

谷津幸利 取締役より、資料1.「2014年度 J:COM 武蔵野・三鷹 事業概況報告」に沿って報告。

- ・サービス加入状況
- ・地域貢献・地域連携の取り組み内容

【5】 2014年度 J:COM 武蔵野・三鷹コミュニティチャンネルの取り組みについて

山田佐智子 企画・制作部 部長、上原正嗣 企画・制作部より、資料2.「2014年度 J:COM 武蔵野・三鷹 コミュニティチャンネルの取り組み」に沿って、『番組向上に向けた施策』について、これまで放送した一部映像を交えて報告。

- ・デイリーニュースの充実
- ・プロモーションの強化
- ・生中継の充実
- ・地域の安心・安全情報の提供。産業の活性化。地元を一緒に盛り上げていきたい。
- ・J:COM グループとなって、他 J:COM 局との交流も実施。

(例) 第93回全国高校サッカー選手権大会では、都立三鷹高校の対戦相手である東福岡高校のチーム紹介映像について福岡エリアのJ:COM局との交流を実施した。

【6】各委員の意見

◆聴覚障害者への対応について

- ・武蔵野市では、J:COM 武蔵野・三鷹へ議会の代表者質問の収録・放送を依頼している。市議会からも聴覚障害者に対しての手話やテロップの挿入など対応をして欲しいと要望があがっている。
- ・民放キー局には、総務省からの要請もあり、音声の文字化システムの導入が実施されているが、ケーブルテレビ局には管轄行政からの要請は無いのか。

【J:COM 武蔵野・三鷹としての見解】

ケーブルテレビ局も総務省の管轄となるが、J:COM を含め他ケーブルテレビ局での導入例については情報を持っていない。視聴が困難な方々にも、番組内容を伝える仕組みを構築するのは重要な使命だと考える。ただし技術的、費用面など導入には様々な課題がある。J:COM グループ全体として今後どのように対応していくのか検討のお時間を頂戴したい。

◆地域の情報収集のあり方について

- ・地域では、市民主導による様々な「まちづくり」の取り組みが行われており、活動する市民は、活動状況の情報を提供したり、他の地域の情報を欲したりしている。そのような情報をどのようにして取り上げようとしているのか。
- ・デイリーニュースの終わりにも、連絡先などの窓口について告知して欲しい。
- ・むさしのみたか市民テレビ局も、広報窓口として機能が出来ると考えている。
- ・行政としても町会の細かい取り組みまでを完全に把握出来ていないのが実情。もっと情報共有・提供の強化をしていきたい。
- ・インターネット上の情報が早い。また、スマートフォンなどで撮影された動画がすぐさまにインターネット上で公開出来るようになった。インターネットの動画を活用したり、市民を特派員として活用したりする仕組みの予定は無いのか。

【J:COM 武蔵野・三鷹としての見解】

おかげさまで、デイリーニュースも知名度が上がってきた。J:COM 武蔵野・三鷹としても、これまで以上に市民や町会的话题を充実していきたいと考えている。インターネットの動画活用については、著作権や情報の信ぴょう性をどう確認するかなど今後の検討事項。電話、FAX、E-mail、SNS など情報を提供していただけるように窓口の体制を強化していきたい。

◆番組映像の作り方について

- ・地域に焦点を当てた倍率の高い情報提供。2014年6月に発生した三鷹市内での雹の被害は、全国ニュースにもなったが、ケーブルテレビ局は地域にほり下げて、地域住民に響く情報提供をより一層心掛けて欲しい。

・時間軸を入れた映像作成。地域のケーブルテレビ局が持っている過去の映像をとり入れて、民放キー局では出来ない映像づくりをして欲しい。たとえば、2020年に開催される東京オリンピックに向けて、1964年当時の東京オリンピックを知るまちの人たちへのヒアリング映像や、変化があるであろう「まち」の移り変りの映像を撮りためて準備をすると良いのではないか。

【J:COM 武蔵野・三鷹としての見解】

・地元の安心・安全情報の提供という視点で、地域情報を意識した番組づくりを心掛けており、三鷹市の雹の被害についても、地元農作物への被害を取り上げた。コミュニティチャンネルを見ていただけるように、ケーブルテレビ局ならではのより一層役立つ地元情報の収集と提供に努めてまいりたい。

◆緊急災害時の体制について

・災害が発生したときに、どのような体制になるのか。
・地域の交通状況など地域住民は求めているが、情報収集はどのようにするのか。
・むさしのFMでは、J:COM 武蔵野・三鷹と「災害時における緊急放送に関する協定」を締結しているが、災害時のシミュレーションなどもっと連携する必要があると考えている。

【J:COM 武蔵野・三鷹としての見解】

・災害時には、各行政から提供される情報を文字放送としても提供。映像撮影については、発災時に撮影体制が組める状況かを確認する必要もある。旧JCNの時から、災害時のマニュアルを作成しており、今後J:COMとしても体制を強化していく。

【7】 2015年度 J:COM チャンネル方針について

荻野雅也 東京中央ブロック エリア制作統括部 部長より、資料3.「2015年度 J:COM チャンネル方針」に沿って報告。

・J:COM 武蔵野・三鷹のエリア周囲は、既存J:COMグループであり、面を活かした連携が可能となった。2014年10月より、JR中央線沿線の情報を連携して放送。
・編成をJ:COMグループで統一化することで、J:COM各局との情報共有、災害時にはJ:COMグループ全体の放送切換えが可能になるなど視聴者にもメリットがあると考えている。

以上をもって、2014年度、第12回番組審議委員会を終了した。

以上